



新美南吉（にいみなきち）

# 校長室より

暗唱だより  
令和5年6月  
第三吾嬬小学校長  
川中子 登志雄

雨の多い季節になりました。春から夏にかけて、雨がたくさんふりますが、この時期のことを「梅雨」と言います。私たちにとってはじめじめした天気が続いて、気持ちもはれない季節ですが、植物にとってはとても大切な雨。この後、夏が来ると雨が少なくなりま

すから、水不足にならないように、この梅雨の間に水をためておくこともとても大切なことなのです。私の住んでいる埼玉県宮代町は、今でも自然豊かなところ。毎朝学校へ来るために電車の駅に向かって急いでいると、雨の後などはよくカタツムリが道の上をはっています。あやうく踏んづけてしまいそうになるので注意して歩いています。

そんなカタツムリを見ると思い出すが、新美南吉さんが書いた小さい子供向けの童話『でんでんむしのかなしみ』です。あるとき、一匹のカタツムリが、ふとした拍子に大変なことに気がついてしまいます。



「自分が背負っているからの中には、なんと悲しみがいっぱいつまっているではないか！」

びっくりして、とても悲しくなると、そのカタツムリは友達のところを訪ね歩き、こんな悲しみをかかえていては、もう生きていられないと相談します。しかし、ほかのカタツムリから返ってきた言葉は、「私も同じです。私のからの中にも悲しみがいっぱいつまっています。」というものでした。カタツムリは、ほかのカタツムリもみんな悲しみをかかえてがんばって生きているんだなと気づき、それからは自分もなげくのをやめ、前を向いて生きていこうと決意します。

令和2年度に『てぶくろを買いに』という作品を課題にしました。新美南吉さんのつくった童話は、こころがあたりかくなる作品が多いのですが、この作品はめずらしく、とてもきびしい現実が、ひらがなだけでつづられています。

新美南吉さんは大正2年7月、愛知県知多郡半田町（現在の半田市）に生まれました。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送り、大人になってからは健康に恵まれず、初めての童話集を出した翌年に29歳でこの世を去りました。

## 5、6月の英語の暗唱は、『この素晴らしき世界』

バラの咲く頃になると思い出す歌です。以前、この歌の1番の歌詞を課題に出したことがあります。今回は歌のサビの部分に挑戦してもらいます。1年生もタブレットが配布されたので、動画も見ながら練習できるといいですね。

